

鬼が守る強いまちを 目指して



岡山市消防局長 藤原 誠

岡山市は、明治22年の市制施行以来13回にわたって周辺市町村の合併等を行っています。特に昭和44年の1市との合併、46年の9町村との合併、50年5月の1村との合併によって飛躍的に広がりました。さらに平成17年3月には2町と、19年1月にも2町と合併し、現在の市域面積は789.95平方キロメートル、旧備前国、備中国、美作国3カ国にまたがる広大な市域となっています。

地形は、旭川と吉井川が瀬戸内海に注ぐ岡山平野の中央に位置し、南部は地味豊かな沃野、北部は吉備高原につながる山並みが広がっています。

気候は、温暖な瀬戸内海特有の風土により、春秋は快晴の日が多く、冬は厳しい季節風を中国山地がさえぎって積雪をみることはまれです。夏に本土を襲う台風も四国山脈が防壁になって勢力が弱められ、影響が比較的少ないなど、非常に恵まれています。

しかしながら、災害は全国的に複雑化、大規模化しており、当市も例外ではありません。平成30年7月豪雨では、河川の堤防が決壊し多数の家屋に被害が出ました。その後も水利不足により鎮火までに数日を要した大量堆積物の火災、建物密集地で8棟を焼損する火災など、社会的影響の大きい災害が続いています。

消防活動能力の維持向上には各種災害を想定した実戦的な訓練が必要であることから、当市消防局は令和2年6月に大規模災害対応複合訓練施設を整備し運用を開始しました。

また、令和3年度からは水難救助業務における安全管理能力と技量の維持向上を目的として、専用の訓練施設整備に着手し、令和7年度の運用開始に向けて関係部局との協議を進めています。

救急需要は増減を注視していく必要があるものの、高齢化の進行による増加傾向は今後も継続することが想定されています。出勤件数の増加や、現場到着時間の延伸に対策を講じる必要があることから、当局では令和3年4月から日勤救急隊を1隊増隊しました。

さらに、猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症拡大への対応では、新型インフルエンザ対策として感染防止資器材を備蓄していたことが奏功し、有効な救急活動を実施することができました。今後、新たな感染症が突発的に発生した場合においても、即時対応可能な体制を維持できるよう、さらに検討していかなければなりません。

当市は、古代に吉備国と呼ばれた地域の重要な一角を占めており、古代吉備勢力の繁栄を伝える遺跡群のほか、城下町、陣屋町、門前町や宿場町など、個性ある歴史・文化資産が数多く存在しています。平成30年には、『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～が日本遺産認定されました。

そこで、当市消防局では桃太郎伝説にちなんで、ストイックな強さを持つ「鬼」に消防職員を喩え、「鬼の守るまち岡山」としてPR活動を展開しています。これからもイメージに負けないよう、鬼のごとく防火防災体制の構築に取り組んでまいります。